

## 冬期のガソリン、灯油の取扱いに注意しよう

これから冬場の乾燥した季節にあたり、ガソリンスタンドでは静電気による火災の発生が危惧されます。また、暖房機器の燃料として灯油を取り扱う機会も多くなりますのでガソリンや灯油の危険性を理解し、安全な取扱方法を再確認しましょう。

### 《ガソリンなどの危険物を取り扱う際には静電気に注意しましょう》

空気が乾燥する時期は、静電気が発生しやすくなります。液体の危険物の中でもガソリンのように揮発性の高いものは、静電気の小さい火花でも引火してしまいます。

ガソリンを取り扱う身近な危険物施設はガソリンスタンドです。特に利用者自身が給油を行うセルフスタンドでは、給油前に静電気除去シートをタッチしてから給油を行いましょ



### 《セルフスタンドを安全に利用するために》

セルフスタンドでは、給油が安全に行われるようにいろいろな安全装置付きの機器が設けられるとともに、危険物取扱者の資格を持った従業員が給油を見守っています。

セルフスタンドを利用するドライバーの皆さんも、次の **その1** から **その7** に十分注意して安全な給油作業に心がけましょう。

給油方法がよくわからなかったり、不安を感じたりしたときは、近くの従業員や給油設備にあるインターホンを利用して、正しい給油方法の説明を受けてから給油しましょう。

# セルフスタンドにおける7か条

東京消防庁

その1

## エンジンOFF！

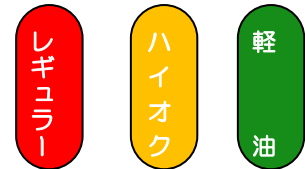
白線などで示された場所に停止し、必ずエンジンを停止しましょう。



その2

## 燃料の確認！

自動車は、ガソリンを燃料とするものと、軽油を燃料とするものがあります。給油する自動車に適した燃料であることを確認しましょう。



その3

## 静電気除去シートにタッチ！

私たちの体には静電気が帯電しています。この静電気の火花が原因で、給油口から出てくるガソリン蒸気に引火する事故が発生するおそれがあります。給油キャップを開ける前に、素手で静電気除去シートや車の金属部分に触れ、静電気を除去してから給油を始めましょう。

タッチ！



その4

## 正しい操作で給油を！

給油ノズルは、給油口の奥まで差し込み、レバーをしっかりと握って給油を行います。

その5

## つぎ足し給油をしないで！

自動車等の燃料タンクが満タンになると、オートストップが作動し給油は自動的に停止します。オートストップ作動後のつぎ足し給油は、燃料が給油口の外に吹きこぼれることがあり危険ですので、やめましょう。



その6

## 給油キャップの置き忘れ注意！

給油キャップを置き忘れたまま走行すると、給油口から燃料やその蒸気が漏れるおそれがあり危険です。給油が終わったら給油キャップの置き忘れに注意しましょう。

その7

## 利用者自ら容器には入れられません！

セルフスタンドでは、利用者自ら容器にガソリンを詰め替える行為は禁止されています。容器に入れる際には、従業員に依頼してください。(安全上等の理由から容器への給油は行わないスタンドもあります。)

## ガソリンを容器で購入される方へ

### ●ガソリンスタンドでガソリンを容器に詰め替えて購入する方にご協力をお願いしています！

現在、ガソリンスタンドでは、  
ガソリンを容器に詰め替えて購入される方に対して

- ★ 身分証の確認
- ★ 使用目的の問いかけ

を行っています。



令和元年7月18日に京都市伏見区の京都アニメーション第一スタジオにおいて、多数の死傷者が出る大変痛ましい火災が発生しました。

本火災では、容器に詰め替えて購入したガソリンが使用されていました。東京消防庁では同種事件の防止のため、ガソリンの容器詰め替え販売時に購入者の身分証の確認、使用目的の問いかけをガソリンスタンドで行うよう要請しております。

みなさまのご理解、ご協力の程をよろしくお願いします。

### ●ガソリンの危険性を理解しましょう！

- ★ ガソリンの引火点はマイナス40℃で、一度火がつくと爆発的に燃焼する物質です。
- ★ ガソリンの蒸気は空気の3～4倍重いので、低い場所に溜まりやすい物質です。
- ★ ガソリンは、離れたところにある小さな火源（静電気、ライター等の裸火、衝撃、電気スイッチの火花等）によって引火する危険性があります。
- ★ ガソリンは、電気を伝えにくい性質のため、容器内で流動が起きた場合に静電気を発生するおそれがあります。

## ●ガソリンを入れる容器を確認しましょう！

- ★ ガソリンを入れる容器は、消防法令により、一定の強度を有する材質などの基準があり、次の表示があるものは基準に適合しています。



- ★ 静電気により着火の危険があるため、灯油用ポリ容器（20リットルなど）にガソリンを絶対に入れないでください。



- ★ 容器に貼られている注意事項に留意し、取り扱ってください。

### ！噴出注意！

- ★周囲の安全を確認
- ★フタを開ける前に
  - ①エンジン停止
  - ②エア抜きをする
- ★高温の場所禁止

## ●ガソリンを容器で購入するときの注意事項

- ★ セルフスタンドでは、利用者が自らガソリンを容器に入れられません。
- ★ 消防法令の基準に適合した容器で購入してください。
- ★ 合計40リットル以上のガソリンを保管する場合は、消防法令の基準に適合する建物で行われなければならない。事前に消防署長に届出が必要です。

# ガソリンによる火災事例

## 「キッチンカーの荷台のガソリンから出火した火災」

用 途 : キッチンカー  
被害状況 : ガソリン携行缶1、給油ホース1等焼損  
概 要

この火災は、ガソリン携行缶から漏れたガソリンから出火したものです。出火原因は、キッチンカーの荷台に、エア抜き弁が緩んだガソリン携行缶を置いたまま、荷台部分で発電機を使用したため、漏れ出たガソリンの蒸気が発電機内に入り込み、発電機内の火花により引火し出火しました。



荷台の状況



ガソリン携行缶の状況

## 「整備中に流出したガソリンに引火し、 周囲の排水溝へ燃え広がった火災」

出火場所 : 道路上  
被害状況 : 樹脂製段差スローププレート等  
負傷者1人

概 要  
この火災は、排水溝に漏れたガソリンから出火したものです。

出火原因は、路上でバイクの整備をするため、燃料タンクを外して排水溝付近に置いた際、燃料タンク内のガソリンが漏れて何らかの火源により引火し、出火したものです。

作業者は、排水溝付近からドンッ、ドンッと爆発音が連続して聞こえたため、自分だけでは対応できないと考え、初期消火を断念しました。



燃料タンクからの流出状況



出火箇所周囲の状況

爆発により外れた蓋

## 《灯油を石油ストーブに入れる時は、ストーブを消しましょう》

**当庁管内では、石油ストーブが原因となる火災が増加しています！！**

平成30年中、石油ストーブに起因する火災が22件発生しており、前年（平成29年中）より3件増加しています。

中でも、石油ストーブを消さずにそのまま手動ポンプで灯油を入れたため、灯油がこぼれ火災に至った事例や、カートリッジ式の石油ストーブのカートリッジの蓋が外れてカートリッジ内の灯油がこぼれ、火災になった事例が多く発生しています。

灯油を石油ストーブへ入れる時は、**必ずストーブを消し、カートリッジを戻すときは、蓋が確実に閉まっていることを確認しましょう。**



### 灯油の保管に関するご注意

- 1 灯油を保管するポイントは次のとおりです。
  - ・保管場所は、火気使用場所から十分に離れた場所を選びましょう。
  - ・保管場所は、常に整理及び清掃に努めましょう。
  - ・灯油を入れる容器や栓に破損がないか確認しましょう。
  - ・地震による転倒、落下が起きないように棚等の固定や滑り止めの設置をしましょう。

- 2 灯油を保管する時、数量に応じて消防法や東京都の火災予防条例に基づく許可や届出が必要となる場合があります。（下表参照）

また、下表に満たない数量の灯油を保管する場合であっても、他の危険物と一緒に同じ場所で保管する場合は届出等が必要な場合がありますので、事前に最寄りの消防署へ相談してください。

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| ・届出が必要な灯油の数量 | ⇒ 200L以上1,000L未満 |
| ・許可が必要な灯油の数量 | ⇒ 1,000L以上       |

